

ロータリー月例報告 Vol.1

留学先：リバプール熱帯医学校 (LSTM: Liverpool School of Tropical Medicine)



写真1. ウォーターフロントエリア



写真2. 毎日通っている市立図書館

私が現在留学中のイギリス、リバプールは歴史的建造物が多く立ち並ぶと同時に近代的建造物も続々と建設されている、歴史と開発が混ざり合った街です。海沿いに赤レンガの建造物があり、私が長く生活していた函館市にとっても良く似ており、大変親しみを感じております。駅や各大学、観光名所や飲食店などが市の中心部に集中しており、徒歩数分圏内で多くの施設へアクセス可能で、リバプールでの生活を始めて1か月ほどになりますが、生活のしやすさを感じています。

早速、イギリス英語かつ独特のリバプールアクセントに苦戦していますが、リバプールの人々は大変親切でフレンドリー。いつも笑顔で丁寧に教えてくれる彼らに、何度も助けられています。

9月下旬より大学の授業が開始され、クラスメイトは現地イギリスの学生に加え、アメリカ、カナダ、チリ、台湾、フィリピン、ナイジェリア、リベリア、シエラレオネ、南アフリカ、フランスなど全世界から学生が発展途上国の医療現場の最前線で働くことを目指し集まってきており、その約90%以上が留学生という大変多様性に富んだクラスです。また、クラスは25人と少人数でかつ授業の90%以上が対面授業であったため、1か月間で多くの



写真3. 大学の校舎

クラスメイトと仲良くなることができました。多くの授業の中にグループでの話し合いの場が設けられており、自分の意見を英語で伝える大変よい練習になるとともに、様々なクラスメイトの意見を聞くことができ、お互いが学び合うことができる大変刺激になる学校生活を送っています。



写真4. クラスメイトとの外出

授業は平日毎日あり、日本語であったとしても難しい内容の授業をすべて英語で受け理解しなければならぬため、毎日の復習と予習が欠かせません。英語ネイティブの学生であったとしても、内容の複雑さ故、すべてのクラスメイトが土日も含め毎日勉強しており、授業がない時間はお互い教え合ったり、一緒に勉強したりと、朝から晩まで本当に勉強漬けの日々を送っております。

リバプール市民からは LSTM はハードかつ優秀な大学だと言われることが多く、LSTM を市民として大変誇りに思っており、そんな大学に留学できていることを嬉しく思うと同時に全力で学業と向き合いたいと改めて思いました。



写真5. デイビットさんとダフネさんのランチ

私の受け入れ担当であるデイビットさんとその妻ダフネさんには、隔離期間中に食材を届けていただいたり、ランチに招待していただいたり、大変親切にしていただき、お二人のとても暖かいおもてなしと心遣いにもまるでイギリスで両親ができたように感じています。また、同じクラスに横浜市からのグローバル奨学生がおり、彼女の受け入れ担当の方のお茶会に参加させていただく機会もありました。リバプールのロータリークラブ全体でサポートしていただき、一言では言い表せないほどの感謝を感じています。



写真6. 横浜の奨学生とともにデイビットさんとダフネさん宅訪問

11月に現地ロータリー財団でのプレゼンテーション発表があり、函館の様子や私が今まで行ってきた活動を報告する予定です。これからも、北海道西部地区・函館地区、そしてリバプールのロータリークラブの会員の皆様の手厚いサポートに感謝しながら、全力で学業に励んでいきたいと思っております。